

図・書・紹・介

・当センター「図書コーナー」にある本を紹介しています。  
 【貸出しのお約束】・1人5冊まで ・期限：2週間 ・利用時間：9時～17時  
 ※時間外の返却はセンター入口横のポストをご利用ください。

N女の研究

『N女の研究』  
 中村安希 / フィルムアート社

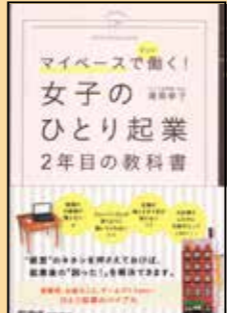
◆NPOで活躍する女性に焦点をあてた一冊。近年、安定した企業から転職してまでNPOに就職する女性が増えている。低賃金、不安定な身分であっても社会に発信する仕事を選んだ女性たち。なぜN女は立場を超えて利害の異なる誰かのために、一緒に闘うのか。



『いやな気分よ さようなら コンパクト版』  
 デビッド・D・バーンズ / 星和書店

『いやな気分よ さようなら』  
 デビッド・D・バーンズ / 星和書店

◆抑うつを改善し気分をコントロールするための認知療法を紹介している。「うつ病」のバイブルともいわれている本書だが、仕事や家庭でいき詰まった時にもおすすめです。



『女子のひとり起業 2年目の教科書』  
 滝岡幸子 / 同文館

◆自分のお仕事・人生を切り拓いていく情熱と長く続けていくための知識と知恵。ひとり起業には、どちらも必要です。「ひとり起業塾」主宰者が教える、起業後に伸びる人のビジネスの常識。



図書コーナーをご利用ください

●男女共同参画に関する書籍のほか、話題を呼んだ一般書籍も多く取り揃えております (ex.「ブルマーの謎」山本雄二)。ぜひお立ち寄りください!

ひとりで悩まないで... 気軽に相談を...



女性専用電話相談です。相談は無料で秘密は厳守します。

とらいあんぐるん相談室

電話 027-224-5210

●相談日と時間

	火	水	木	金	土	日
9:00 ~ 12:00	○	○	○	○	○	○
13:00 ~ 16:00	○	○	○	○	-	-

・年末年始(12/29～1/3)、祝日、月曜日は休み ・月曜日が祝日の場合、火曜日も休み

【相談内容】家庭の問題の他、女性の自立や能力の発揮、性差に関する悩みなど...

センターのご案内



●お車で越しの際は、県内「県民駐車場」をご利用ください。(2時間まで無料)

●開館時間：火～金 9:00～21:00  
 土・日・祝 9:00～17:00

●休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)  
 12月29日～1月3日

〒371-0026 群馬県前橋市大手町1-13-12

電話 027-224-2211 FAX 027-224-2214

メール sankakuse@pref.gunma.lg.jp

●研修室の貸出しを行っています。

詳しくはホームページをご覧ください。



●大研修室《半日：3,600円》 ●中研修室《半日：1,640円》

●編集後記

とらいあんぐるんの休館日に、ときどき映画を観に行きます。大ヒットした「シン・ゴジラ」や「君の名は。」、知る人ぞ知る「団地」や「14の夜」など。

先日は「彼らが本気で編むときは、」を観ました。小学生の女の子トモ(母が出奔!)と叔父マキオ、LGBT(性的少数者)のリンコさんとの交流を軸に、LGBTの同級生も登場します。初めはLGBTに警戒心を持ったトモも、リンコさんの人間性に心を開き、明るい笑顔を取り戻します。LGBTを取り巻く環境(家庭・学校)の厳しさや「母と子の関係(と連鎖)」「子どもの貧困」など、現代社会の様々な課題を追いながらも、時にユーモアも交えて話がテンポ良く展開します。

偏見と無理解をベースにした決めつけが、LGBTの子どもや大人、友人・家族をどれだけ苦しめるか。また、子どもの親への複雑な想い、などがストレートに伝わってきました。ハッピーエンドではありませんが、「観て良かった」と素直に思える映画でした。(洋)

とらいあんぐるん

ぐんま男女共同参画センター通信

2017年3月

No.45



ぐんま男女共同参画センター  
 〒371-0026 群馬県前橋市大手町1-13-12  
 TEL: 027-224-2211  
 FAX: 027-224-2214  
 メール: sankakuse@pref.gunma.lg.jp

～男女共同参画社会の実現を目指し活躍する人たち～

企画 インタビューコーナー 第20回

群馬県立女子大学

国際コミュニケーション学部長  
 国際ビジネス課程教授

小林良江さんに聞く



■国際コミュニケーション学部

「英語運用能力を習得したい!」「国際的に活躍したい!」という女性が入学してきます。国際社会で活躍するためには英語力やグローバルな知識はもちろん、自らの課題を発見・解決する能力が必要です。そのために少人数で学ぶアクティブ・ラーニング形式の授業も多く開講され、学生同士が切磋琢磨できる環境を整えています。最近の若者は言われたことはできるのですが、自分で考えて行動する力が弱いように感じます。自分で考え動く習慣を身につけ、グローバル社会へ羽ばたくための力をつける学びの場です。

■ジェンダーと学生

大学では「ジェンダーとリーダーシップ」という授業を担当しています。教育の場にいる学生たちは性差別を感じる事がほとんどないようです。初めて差別を感じるのが就職活動です。一緒に就職活動を始めたのに何故か男性が先に決まってしまう。採用人数も男性の方が数倍も多い。社会に出て初めて「ジェンダー」という概念の重要性に気付き、振り返れば教育の場にも差別があったことに気付きます。社会に出て羽

■群馬の女性は強くない!?

群馬に来た時、「群馬の女性の言葉って強いでしょう?」とよく聞かれました。東京下町(両国)の生まれなのですが「下町の女性の言葉の方が強いな」と思っていました。また、県外で出身地を聞かれて「群馬」と答えると、「『かかあ天下』なんだ、強いね」と言われるということもよく聞きます。決して、かかあ天下=強い女性、という意味ではないようですが、一般のイメージは「群馬の女性は強い」となるようです。

私としては、群馬の女性は男性の前には出るのではなく、むしろ「後ろに控えて男性を支えようとしている」という気がします。それが顕著に表れているのが、内閣府が1月にまとめた「全国女性の参画マップ」です。県内市町村の審議会など委員に占める女性の割合、自治会長に占める女性の割合は全国都道府県で最下位です。男性の後に控えている奥ゆかしい群馬の女性像が見えませんか? 少子高齢化社会では、女性も男性も活躍できる土壌が社会の活性化促進の鍵だと思っています。

■女子大で学びましょう

「女子大は女性しか学べない?」そんなことはありません。毎週学生と一緒に学べる県民公開授業を開講しています。

29年度も、様々な業種で活躍する女性の新しい生き方・働き方を学ぶ「女性の新しい生き方を見つけよう」や駐日大使やNGOのリーダーなどから国際社会の問題を学ぶ「大使リレー講座」などが開講されます。29年度のカリキュラムが4月頃発表になります。女子大生と一緒に、県立女子大で学んでみませんか!



●「研究室前のカーテン」●

国際コミュニケーション学部の研究室のドアにはカーテンが掛かっています。部屋ごとに色も形もバラバラですが、ほとんどの部屋にあります。これはセクハラやパワハラなどを防止し、学生が相談に来やすいようにつけられたもの。学生との密室でのやりとりを避け、ドアは開放したまま、最低限のプライバシーを守るため目隠し代わりにカーテンがあります。カーテンに隠められた意味はとても重いものですが、無機質な研究棟に掛けられた色取り取りのカラフルなカーテンに、ほっこり、した取材班なのです。

インタビューコーナーでは、「男女共同参画社会の実現を目指し、さまざまな立場で活躍している人」を紹介します。